

芸術文化創造センター整備推進委員会建設計画専門分科会 第3回 議事録

日 時：日 時 平成25年10月30日（水）18時00分～21時00分

場 所：小田原市役所3階全員協議会室

出席者（敬称略）

[芸術文化創造センター整備推進委員会 建設計画専門分科会]

	氏 名	区分・専門分野	所属等
会長	仙田 満	建築学 環境デザイン	東京工業大学名誉教授 (株)環境デザイン研究所所長
副会長	勝又 英明	建築計画	東京都市大学教授／建築学
委員	桧森 隆一	文化政策 アートマネジメント	嘉悦大学副学長／地域産業文化研究所所長
委員	市来邦比古	舞台設備	日本舞台音響家協会副理事長
委員	三ツ山一志	劇場運営 展示系	横浜市民ギャラリーあざみ野館長 横浜市芸術文化振興財団

※仙田分科会長は所用により欠席。

[事務局・設計者]

所属・役職		氏 名
事務局	文化部長	諸星 正美
事務局	文化部副部長	原田 泰隆
事務局	文化部管理監	瀬戸 伸仁
事務局	文化政策課長	中津川 英二
事務局	芸術文化担当課長	間瀬 勝一
事務局	文化部文化政策課芸術文化創造センター担当副課長	志村 康次
事務局	文化部文化政策課芸術文化創造係長	高瀬 聖
事務局	文化部文化政策課芸術文化創造センター整備係	杉山 和人
事務局	文化部文化政策課芸術文化創造センター整備係	府川 幸司
事務局	文化部文化政策課芸術文化創造センター整備係	鶴井 雅也
設計者	(株)新居千秋都市建築設計	新居 千秋
設計者	(株)新居千秋都市建築設計	吉崎 良一
設計者	(株)新居千秋都市建築設計	新居 未陸
設計者	(株)新居千秋都市建築設計	亀田 浩平
事務局	(有)空間創造研究所	草加 叔也
事務局	(有)空間創造研究所	田原 奈穂子

[傍聴者]

19名

～次第～

1. 開会

2. 議題

(1)市民ワーキングについて

(2)第 2 回基本設計案について

(3)その他

3. 閉会

次第1 開会

- ・注意事項説明（一部配付資料の回収について）
- ・文化部長挨拶
- ・資料確認

次第2 議題(1)市民ワーキングについて

勝又副分科会長

本日は仙田分科会長がお休みということで、私が代わりに議事を進行させていただく。本日は10月13日に発表された第2回基本設計案を受けて議論いただくことになる。パブリックコメント前の最後の委員会となるので、限られた時間ではあるが、中身の濃い議論をしていきたい。議題(1)市民ワーキングについて、事務局より説明をお願いします。

事務局

（平成25年度のスケジュールについて説明／資料1）

勝又副分科会長

市民ワーキングについて、これまでの経過と今後のスケジュールについて説明を頂いた。資料1についてご意見はあるか。

設計者 新居千秋氏

12月21日に基本設計の市民ワーキングが予定されているが、所用があり出席できない。何か考えていただけないか。

勝又副分科会長

日程は事務局に調整をお願いします。他にご意見がなければ、基本設計案の議論に進みたい。市民ワーキングについては、桧森委員や私が出席しているが、基本設計案の議論の時間があるので、そこであわせてご意見を頂きたい。よろしければ次の議題に進みたい。

次第2 議題(2)第2回基本設計案について

勝又副分科会長

では、「(2)第2回設計案について」に進める。新居さんに設計案のご説明をしていただく前に、計画敷地について事務局から説明したいとのことなので、まずその説明をお願いします。

事務局

（敷地形状の一部修正について報告）

勝又副分科会長

敷地の一部修正についてご説明があったが、ご意見等あるか。寸法にしてどれほど移動していたのか。

事務局

現地で測った寸法で、小さいところで50cm弱、広がっているところで90cm弱であった。ただ、設計上は大きく影響してくる修正であり、設計工程上大きな手戻りを生じさせるご迷惑をおかけしている。

勝又副分科会長

大変な変更であるが、いかがか。特にご意見はないか。では、事務局から、市民ワーキングでの説明があったという市の事業の考え方等について概略を説明していただきたい。

事務局

(自主事業等についての考え方について説明／資料2)

勝又副分科会長

では設計者の新居さんから基本設計案のご説明をお願いします。ご説明のあと、本日の議論に入りたい。その後、資料3をご覧いただきながら、あるいは他の資料を参考にさせていただきながら、皆さんの意見、ご提案を頂き、場合によっては新居さんの解説も頂きながら、今日の議論を進めていきたい。では、新居さんをお願いします。

設計者 新居千秋氏

今、僕らは非常に困っている。1317項目にわたって皆さんの意見が出ている。その中にはバッティングしている意見もいくつかある。全部の人の意見を全部満足させるようにだいぶ試みているが、例えば大スタジオの性格など、まとまっていないところがある。僕らは何かのイメージのどこかを拠り所しないと設計ができない。前はアンケートの意見が少なかったので、一つ一つの意見について、こうしました、と報告していた。1317項目では出来ないの、自分たちで「こうではないか」というのをまとめている。我々、十数人の人間で、僕らのベストを尽くしている。

また、先ほどご報告のあった敷地の形状修正の影響についても説明したい。プロポーザルの後から敷地の形状が変わってきている。生活道路からの斜線の影響があり、難しいところがある。一度は、天空率の計算も、座席ごとの視線チェックも行なっていたが、それは全廃してやり直すしかない。断面図を出せなども言われたが、今、全てやり直している。「敷地が1mくらい縮んだ」と簡単におっしゃるが、簡単な修正ではない。まず、駐車台数が確保できなくなる。先日のワーキングで障がい者の方にご説明したが、4台とお約束した駐車場が3台しかとれない。また、狭くなるだけでない問題点は、道路からの斜線が建物の高さに大きく関わることである。

皆さんからのご要望も、一番最後のリストが送られてきたのは昨日の夜10時である。全てについてお応えすることは不可能な状況である。来たものについては、みんなでとりあえず確認し、ほぼ徹夜で作業をしてここに来ている。やれるだけのものを直して、おススメはこれではないかという案である。

色々なご指摘から、プロポーザル、第1回設計案から大スタジオの位置を入れ替える検討をしている時に、敷地修正の最初のお話があった。僕らは躯体から検討していくので、細かい部屋については、皆さんに検討していただかないと決まらない。また、美術関係の部分なども流行った場合には、当初プロポーザル案で提案していたガラス越しに広場が見えるということが難しいだろうという問題があり、大スタジオやギャラリーまわりの検討を続けていた。無目的で来た人が居られる場所や、喫茶店の位置も変更しようとしていた。似ているようでも配置や寸法が異なる図面をいくつもつくって検討している。前回の建設計画専門分科会で、2階への裏動線などの話もあり、それをまとめつつあった。三ツ山さんのギャラリーにも伺い、見せてもらい、僕自身も色々な美術館に行って幅などを研究している。

敷地のレベル差は80cm程度であり、以前計画していたスロープ、斜路はやめ、1階は全てユニバーサルデザインになるようにしている。入口のところのみ、1箇所だけ、斜路を設けることで、解決できそうである。三ツ山さんのギャラリーを見せていただいて勉強したが、床のレベルがフラットなため、美術品を搬入しようとする段差ができる。それを解消するためには、リフトを設置するか、斜路を設けるしかない。今はリフトを設ける形式を考えている。ギャラリーに独立の搬入が必要等の課題、独立の搬入をお堀端通り側に設けるのであれば市民の人たちの交通への課題、またギャラリーが稼働すれば広場側が閉じるという前回分科会での指摘を受けて、スタデイを開始し、ギャラリーの位置あたりの見直しを行なった。

もともと、道路があるということで、天空率による検討をし始めていて、その時点でも、建物の高さは非常にギリギリであった。通常の構造設計家は、このホールのようなスパンがあれば、13分の1以上の梁せいをとるのが原則である。例えば三十数メートルとして、3m近い梁せいがないと、この建物は破壊してしまう。たまたま、僕の構造設計家は最強であり、一緒に色々と賞をとっている。日本でこの問題が解けるのは5~6人しかいない。この形は好き嫌いではなく、この形でしか建たないものだ。それをもとに検討を進めていたら、「敷地の形状に修正があります」と簡単に言われた。僕らは何百枚と描いた図面を捨ててやり直している。この変更は簡単な内容ではない。高さ的に一部を凹ませる等しくてはいけない。今は建物が建つかどうかの瀬戸際である。天空率の計算は、最初は、簡易なソフトを使って出来るだろうということをやっていたが、それでもギリギリであった。今回の変更でより厳密な計算が必要になり、レベルの高いソフトも買い、全部の場所を細かくあたっている。その結果、36mのスパンで90cm以内の梁でとばせない限り、音環境が悪くなるか、部屋が減るかのどちらかなしでは成り立たない。簡単に「すみませんでした」と言われても、僕らも検討はするが、実際にはこれくらいキツイということは頭にいれて、見ていただきたい。これについては、今、僕らは黙々と作業をしており、11月の終わりくらいまでに解けるかどうか、という限界である。そこまでに解くつもりでやる。僕の構造設計家はたぶん解けるだろうと思う。ただし、コスト的にどうなるかもわからない。

ここからは一つずつ説明していく。

- ・全体/広場： 馬出門の前に30m角の広場。将来のお堀端通りのたたずまいへの期待がある。
- ・ギャラリー： ギャラリーで240マスあり、こども室部分まで増やすと304マスまでとれる。こども室部分は準備室、作家の展示の際の映像展示室等、様々な使い方ができる。全長147mで100号は68枚展示可能、拡張すると186mで100枚展示可能。空調等についても検討が必要で、意見が頂きたい。現在、パネルの荷重やスムーズに動かせるか、なるべく筋が出ない可動壁を検討。
- ・スタジオ： 8間×8間と言われているが、7間×7間にディレクターのスペースをとっている。広げる可能性を探しているが、条件の厳しい場所であり、1~2ヶ月間考えたい。中スタジオは6間×4間。2階の配置はトイレを含め、再検討中。レストランは40席前後のものまでを想定している。メニューの可能性も検証中。インフォメーション付近のチラシラック等の配置や大きさも検証中。
- ・動線： 駐車場配置が変わるが、身がい者の方の駐車場から雨に濡れずに入れる動線を確保。裏周りの動線の整理、大ホールと小ホールの楽屋口を分けることを検討中。各機能ごとのエリア区分の確保。和室は次回などに考えをきちんとお話ししたい。2階は大ホール客席と諸室でどうしてもレベル差があり、1/16の斜路でつなぐ。敷地を買っていただかない限り解消できない問題もある。
- ・バリアフリー： 車いすの方から、上手下手よりではなく、中央で見たいというご要望があつたが、サイトラインの確保の点からもなかなか難しい。もう少し前にできるか検討中。トイレは、面積的には当初案の1.4倍で、非常に多く、15~16人に1コ。エレベータのサイズを大きくした。ストレッチャーが入る大きさになっている。
- ・その他： 60億にはあわないが、今後の検討としてあわせて検討していく。今は、構造の検討を待っている。その結果が出てから、更にブラッシュアップする。

21コ模型をつくったが全てやり直しとなる。模型も1コつくるのに、1人で4~5日かかる。条件が途中でコロコロ変わると検討が進められない。これが、今、僕らのやっている作業である。

勝又副分科会長

ありがとうございました。では、早速だが、基本設計案について議論していきたい。今の説明の中で検討中という項目があったが、それは議論でも検討中とおっしゃっていただいてもかまわない。新居さんには申し訳ないが、設計案は理解していることを前提に、資料3で重複する部分もあるが、ご説明にあったことは、お返事を省いて進めていきたい。なるべく効率的に進めたい。

本日のこの審査委員会で結論を出せるものは出し、しかし、結論が出ないものについては、無理に出すのではなく、事務局からのスケジュールでも説明があったとおり、本日の議論をふまえながら、さらに検討を進めていただく流れになっている。パブリックコメントも実施されるので、次回の第3回設計案に向けて議論をうまくつなげていくことができればと思う。市民ワーキングや管理運営専門分科会にご参加いただいた委員には、その時の状況もふまえながら議論を進めていただきたい。

では、図面と資料3を見ながら進めていきたい。とりあえず、通しで議論してゆく。まず、1ページ、施設全体の話については、いかがか。

桧森委員

エレベータが2つ計画されているが、2つとも表動線側にある。裏動線側がない。

設計者 新居千秋氏

シンドラの問題等もあって以来、エレベータの基準が厳しくなり、コスト的にも台数を増やすことが難しい。

桧森委員

数は仕方ないと思うが、例えば、大ホールホワイエのエレベータを、搬入のために、裏周りに持つてくることはできないか。

設計者 新居千秋氏

体の弱い人を2階に運ぶのにエレベータが必要。搬入は舞台面とゾロでできる。難しいのではないか。

桧森委員

搬入というのは、2階の中スタジオ、ワークショップルーム、小スタジオ等では、アンプや楽器などを使う可能性もあり、それら道具を2階のスタジオに運ぶのに裏周りのエレベータが必要ではないか。

設計者 新居千秋氏

施設全体のメインのエレベータで2階に運ぶことができ、勾配のゆるいスロープ等で全ての室に運ぶことができる。

桧森委員

そのために、表側を通らざるを得ない。

市来委員

僕は、この位置で問題ないと思っている。市民の方が楽器を運ぶのには表も裏もない。表のエレベータを使ってスタジオへ搬入していただいても問題はないのではないか。

桧森委員

それが確認できればよい。

市来委員

ロビーのエレベータは相当大きなものであり、重量物の運搬も問題ないとする。

勝又副分科会長

では、次のページに進む。2ページは大ホール系機能についてである。左側に基本計画が書いてある。全ての原点は基本計画ということで、それをプロポーザル案、第1回設計案、第2回設計案で比較して

いる。主に第2回設計案、今どうなっているかというのと見比べていただき、確認したいことがあればご発言いただく。まず舞台についてはいかがか。

市来委員

今後の検討や、音響とも関連するが、大きな論議として、舞台はエリアとしては8間間口だが、音響反射板を飾る際の大臣間口が10間となっている。これを9間間口としてもよいのではないか。

設計者 新居千秋氏

音楽系で載るもののマキシマムをとって10間間口としている。広げる方ではなく縮める方なので、構造的にもよいが、演目にも関わるので、僕らでは決めにくい。

設計者 吉崎良一氏

市来委員のおっしゃったとおり、大臣間口が10間で、可動プロセニウムで開け閉めし8間にしようとしている。反射板の間口は、小田原フィル等が演奏するというお話があり、反射板を組んだ時のスペースでそれらのオーケストラが載る間口を考えている。それを縮めてよいか。

市来委員

今後の検討の中で、大きく何かをしなくてはいけない場合には、これが一つの手かと思う。

また、脇花道について、両側に脇花道がある必要はないと思う。下手だけでもよいのではないか。ただし、仮設でやるということなので、とりあえず両方あってもよい。

桧森委員

脇花道の角度について、もっと角度を客席側にふれないかという意見もあるが、それは難しいのか。

設計者 新居千秋氏

照明や音響等との取り合いがあり、客席数が減る可能性が高い。この事については僕らなりの限界値でとっている。理想的にはもう少し角度があった方がよいということはわかるが、客席の形状、そこに関わる照明や音響の部分で取り合いがあり、僕は捌ききれない。今はこの角度として、鳥家は普段は壁として音響的に影響がないようにし、4畳半くらいのスペースを何とかとろうとしている。音響設計家等、その他専門家との検討が必要である。

桧森委員

優先順位として、他の犠牲が大きいということであれば、こだわらない。

設計者 新居千秋氏

今はこのような形だが、最終的に客席形状を決定していく中で、変更し、検討していく。内部の模型をつくり、音のシミュレーションもして、決定する。これまでに検討していたことが全てやり直しになったので、少し時間を頂きたい。

勝又副分科会長

では、客席についての議論に移りたい。1200席は確保されている。オーケストラピットはどうするか。基本計画では「固定客席を基本とする」「オーケストラピットなど一部可動する機能を備える」ということで、「つくって下さい」ということであると思う。検討中ということよろしいか。

設計者 新居千秋氏

今は、コストの問題により手動で入れている。電動の方がよいかと聞かれれば、よいと答える。今、僕らが計画している小迫りをやめて、オーケストラにつき込むか、などの検討はしている。その中で判断する必要がある。本当は、オーケストラピット迫りを使う演目を、小田原市が年間どれくらいやるのかを議論していただきたい。

桧森委員

管理運営分科会で、神奈川県立音楽堂館長の伊藤委員が、手動だと動かすための人工がコストになってしまうと発言された。つくる時のコストもあるが、何十年使っていく時のコストもある。

オーケストラピットとして使うだけでなく、迫り上げて前舞台として使う、奈落からものを上げるために使うということもある。管理運営分科会としては、使用頻度はあると考えている。

設計者 新居千秋氏

電動であれば、メンテナンスの経費が年間数百万単位でかかる。電動の方が色々なことが出来るからよいと思う。しかし、以前、大船渡で本当に必要なかどうか1年間論議したことがある。その時は、大船渡の人たちが「図書館をつくりたい」というので、コストをそちらにまわした。

先ほどの花道のことでもそうだが、演目として本当に何をやりたいのかわからないと、ブレていく。全体のコストを考えるときつい。どこかを削って入れる工夫が必要だ。理想で一度描いてみるが、そこから先はできるかどうかわからない。

桧森委員

しかし、基本計画で「オーケストラピット」と書いた時点で、手動は想定していない。

設計者 新居千秋氏

基本計画には「可動」と書いてある。「可動」であったので、その時点のコストで判断し「手動」で「可動」が可能だと考えた。個人的に電動に反対しているわけではない。腹をくくってやるためには、どこかを削らなくてはならない。全てを実現するには天井知らずのお金が必要。電動の迫りが実現すれば、奈落を倉庫的にも使用が可能になることもわかっている。わかった上でお話しをしているのは、僕の立場として、コストのコントロールをしなくてはならないからである。それを外していただければ問題はない。今は、他にもよいやり方がないか検討をしている。

桧森委員

コストの基準をここでは議論しないが、自主事業も含めて施設を使っていくことを考えると、電動のオーケストラピットの優先順位は高いということはお伝えしておく。

設計者 新居千秋氏

僕らも、もっと、どういう団体の人がどこをどう使うかということを知りたい。例えば、既存の団体の人が大スタジオを使うのか、新しい団体を起こして使うのかでは違う。サジどころがわからない。全体のプログラムがファジーなために、設計が非常に難しい。検討はしている。みんなの決断による。

勝又副分科会長

検討課題ということで、先に進みたい。

市来委員

優先的な検討課題ということで、ご理解いただく。

勝又副分科会長

それ以外に、客席のところに課題がなければ、大ホールの付随機能を確認する。ホワイエにはバーカウンター、トイレ、主催者事務室、客席係控室、付随する倉庫を計画するというので、このあたりについていかがか。

市来委員

その前に、客席についても一つ申し上げたい。調整室は、現在はシングルラインの図面で1室で描かれている。これは、できれば中を照明と音響で分けていただきたい。

設計者 新居千秋氏

それは、すぐにでも対応できるが、まだ調整室の大きさ等を検討している段階である。客席について、

もう一つ言わせていただく。障がい者の介助者の席をとるようと基本計画にあった。その席を全てとっていくのは可能でない。両端までのばせるが、そのあたりが限界かと思う。1人に1人の介助者がつくので8人ということになると、その分、広がる。それは、やれる範囲にしないと、段床がうまくつくれなくなってしまう。

桧森委員

やれる範囲ということだが、通常は、介助者が必要な方は、車いすのとなりに例えばパイプ椅子を並べるなどの対応をする。

設計者 新居千秋氏

そのような形であればできる。特殊なことを言われるとできない。

桧森委員

通常の客席と同じ座席は難しいのではないか。

設計者 新居千秋氏

決して適当にやるわけではない。僕らの中のベストはつくすが、限界がある。

市来委員

車いす席の隣に3席、2段の通常の客席がある。これを2席にして車いす席を少し広げたらどうか。1200席からは4席減ってしまうが、車いすのエリアを少し余分にとって、車いすもう1台は入らなくても介助者が入れる広さを確保してどうか。

設計者 新居千秋氏

車いすの方と介助者が入れるくらいは、今、とってある。それ以上になるとなかなか類例をみない。できるだけ増やしてはいくが、僕らのやれる範囲でお願いしたい。

市来委員

車いす席を増やすのではなく、そのエリアを通常よりも広げることで、介助者にも配慮した施設であることが伝わるものをつくれぬか、という提案をしている。

設計者 新居千秋氏

興行場法よりも若干多い広さをとっている。それを更に超えるように何とかしたい。

勝又副分科会長

では、客席についての議論はここまでとし、付随機能の議論に移りたい。

桧森委員

付随機能のところで、トイレについてだが、現在の図面では、女子と男子が同じ面積になっている。しかし、当然女子の方が沢山必要である。

設計者 新居千秋氏

トイレ自体は、当初案の1.4倍まで増えており。全体のエリアで14人に1つくらいはある。興行場法などでの確認はもちろん、それ以上に増やして、今はトイレ内部の検討までまわらないので、図面上では便器数を描かずエリアだけの表記にしている。

桧森委員

トイレの数全体で増えているのはわかるが、男女比率について考慮して欲しい。女子の方を多く、広くみておかないと、運営上難しい。

設計者 新居千秋氏

もしかすると、男子の方も女子と同じように増やしているかもしれない。今はマキシマムまでいくように検討している。

勝又副分科会長

では、設計が進んで余裕が出来たら、男女比にも考慮して便器数をシミュレーションして頂きたい。

市来委員

例えば、男子の方を、エリアで分割できるようにし、それぞれに出入口をつけておいて、一つを女子として使うということも、よく使われている方法である。もしも、今後の検討で、いよいよ男女比があわないということがあれば、そのようにしたらどうか。

桧森委員

確かに出し物によって男女の数を変えられるという施設もよくある。

市来委員

エリアが広がっており、余裕があるので、後で十分にご検討いただけるのではないかと。

勝又副分科会長

主催者事務室や客席係控室についてはいかがか。

設計者 新居千秋氏

主催者事務室については、大ホールと小ホールを分けようとしている。大ホールは駐車場側につくり、小ホールは現在の位置で独立させる。前回委員会の桧森委員の指摘を受けて、有名歌手が来た場合の裏周りの区切りもシミュレーションしている。楽屋が足りない時には、階段で2階へ上がると、中スタジオを楽屋的に使えるように2階の配置も変更している。

設計者 吉崎良一氏

2階はトイレより奥で扉をつけて、裏方エリアと区分できるようにしている。今の計画では閉めてしまうと2階の利用者がトイレに行けない状況になっている。

設計者 新居千秋氏

徐々にではあるが、検討を進めている。僕らはこれまで田舎での経験が多かったので、大小ホールの楽屋口は兼用することが多かった。より大ホールと小ホールが明快に分かれてできるようにしている。

桧森委員

基本計画にある「主催者事務室」と「楽屋事務所」は別のものである。例えばオーチャードホールなどをご覧いただければわかるが、表側ホワイエに主催者事務室があり、楽屋は楽屋で楽屋事務所がある。主催者事務室と楽屋事務所は別のものである。ホワイエ内に主催者事務室がないのではないかと。

設計者 吉崎良一氏

今は楽屋事務所しかない。

設計者 新居千秋氏

もともとは管理事務室の近くに市民も使える会議室などを考えていたが、管理事務室の人数が増えてきて、技術スタッフ室もつくった。その近くに打ち合わせ室のようなものがあるので、それは貸せるのではないかと。管理事務室の計画は、受付カウンターの位置と、26人の机とコピー機や印刷などの動線も配慮して決めている。その横に「会議室」と呼んでいるスペースがある。その横には給湯室や市民の方の要望でつくったシャワー室などもつけている。敷地が限られていて、何かをやめなければ増えない。あるいは倉庫をやめるか。ゴミ置き場なども、どれくらい出るかを想定して計算している。どなたがその部屋を主体的に使うかを決めていただかなくてははいけない。市民が使うのか、職員が使うのか、主催者が使うのか。

桧森委員

主催者事務室と楽屋事務所は、ホールを借りた主催者の方が使う部屋であり、通常はホールの貸し出

し料金の中に含まれる部屋のことである。表側にある主催者事務室は往々にして救護室を兼ねることもある。

勝又副分科会長

それほど大きな部屋は必要ないのではないか。兼用を含めて、今後の検討課題としていただきたい。

市来委員

ホワイエ内をもう少し整理していただければ十分に可能なのではないか。倉庫のあり方などももう少し明快にすれば、僕はつくれると思う。主催者事務室については、大ホールには、ロビー側にやはり部屋が必要だと思う。今のままでは、階段の下などをパーテーションで区切って主催者のエリアにすることになると思う。それでは今の市民会館と変わらない状態になる。それであれば、少し、しっかりしたものにしておいた方がよい。

設計者 新居千秋氏

後で論議していただきたいが、現在はホワイエの両側に障がい者の方のトイレを設けている。それをどちらか一つでよいと言っていただくと、つくることができる。人が動く量は決まっているので、どこかを狭めるのは難しい。階段の横の部分の高さは 2100mm くらいである。そこをきちんとして、主催者事務室をつくれる可能性はある。

市来委員

身がい者のトイレの位置を変更するなどのご検討いただけないか。

設計者 新居千秋氏

女性トイレに人が並ぶことや、身がい者の人が入りやすい間隔も考慮してこの位置に配置している。

勝又副分科会長

検討課題ということで、次の項目に移りたい。では、楽屋についてはいかがか。今、検討されているということであるが、楽屋口は兼用ではなくなるということによろしいか。

設計者 吉崎千秋氏

楽屋口については、大ホール、小ホールで分けようとしている。

市来委員

小ホールの楽屋口は、小ホールの楽屋口兼スタッフ全員の出入口になり、大ホールに関しては駐車場に面したところになると伺った。どちらも搬入・組立場を経由するが、そのようになっているホールもあるので、搬入している時に出演者の出入りもあるようなイベントの時には気をつけていただきたい。大ホールの駐車場側の入口は、楽器などもそのまま持って入ってこられるのでよいのではないか。

設計者 新居千秋氏

その方向で検討している。

桧森委員

小楽屋が 2 つあるが、マエストロやソリスト、コンサートマスターなど、一人で置いておかなくてはならない人をどこに入れるかはよく問題になる。必ずしも、トイレやシャワーがついていなくてもよいが、一人でいられる部屋はいくつか欲しい。小楽屋をもっと細かくしてもよいが。

設計者 吉崎良一氏

全体人数の問題がある。部屋を小割りにした時に、全体で収容人数が確保できない可能性がある。

設計者 新居千秋氏

マエストロ等が多く来た時には、楽団を 2 階の広い楽屋を使ってもらって、大楽屋も 1 人で使ってもらっていただくということになるのではないか。小楽屋も通常の大きさである。

勝又副分科会長

小楽屋は何人用か。

設計者 新居千秋氏

6人用である。6人も入るが、1人で使ってもよい。偉い人はそれでよいのではないか。

市来委員

世田谷でも、シアタートラムなどでは、芸術監督は6人用を1人で使っている。6人の部屋でも畳を敷いたりしたら、1人しか入れない。

設計者 新居千秋氏

あまりに小さな部屋にするとムクれる方もいるという経験があった。僕らは、少なくともこれくらいの広さで大きく使ってもら方がよいとご提案した。

桧森委員

1人で利用したい方が何人もいらっしゃる時に時々困る。

勝又副分科会長

では、それも検討課題ということで、大ホールについては、以上でよろしいか。ではここで一度休憩を入れたい。

<休 憩>

勝又副分科会長

では再開する。今日中に最後まで一通り確認したいので、検討中のものは検討中として、できるだけ手短かに質問、ご回答頂き、簡潔にやりとりしていきたい。小ホールだが、まず、舞台についていかがか。

市来委員

6間×5間の舞台であるが、音響反射板を何らかの形でもう少し軽いものにできないか。(具体的なシステムの提案：正面音響反射板を引き戸タイプのものとし、奥行き4間の位置で固定する。引き戸を開けば奥行き5間が確保される。反射板を閉めて6間×5間を確保する際のため、前舞台をハコ等で簡単に張り出せるようにしておく。)吉祥寺シアターなど様々な施設で、奥扉を開けて演技スペースとしている例もある。そういうご提案を先日の舞台設備のアドバイザー会議で出した。舞台設備の方でもコスト削減が必要とのことで、そういった話をしている。それを皆さんにご報告しておく。舞台の奥行きも縮められ、その分の建築面積も減るのではないか。フルサイズの音響反射板に比べれば、不自由な面もあると思うが、音楽はもちろん、小ホールで行う演劇にも十分な可能性を確保できるのではないかと考えている。

勝又副分科会長

では、そのことについては継続検討課題ということで、管理運営側でこの舞台で何をやるかということも関連させてご検討いただく。搬入口がガルウイングに対応していないということは、どうしようもないか。

設計者 新居未陸氏

ガルウイングには対応している。

勝又副分科会長

では先に進む。客席についてはいかがか。調整室、多目的室もよろしいか。

市来委員

調整室については大ホールと同様に今後の検討項目だと思うが、小ホールの場合は1室の中で照明と音響についてなんとかするという形でもよいと思う。

勝又副分科会長

では、小ホール付随機能についてはいかがか。客席側上手側の階段がホワイエに通じていないという項目もあるが。

設計者 新居千秋氏

300席ということで、下手側客席階段は十分にとっている。わざわざ上手側にもとる必要があるか。

桧森委員

上手側の階段は、小ホールエリアではない階段であるということによいか。下手側の階段はエリアの中にある。上手側の階段を使うかどうかという問題だが、おそらく、運営上では、帰りにしか使わない。モギリ線を1階の1カ所で固めて設定したいが、それができれば、帰りに捌ける時に使えるようになるということ構わない。

勝又副分科会長

モギリ線の調整で解決できるということによろしいか。では、その点についてはよいということで、楽屋についてはいかがか。

桧森委員

小ホール楽屋は大部屋3つでよいのかという議論があった。

勝又副分科会長

この範囲であれば、壁の位置で調整できるということなので、今後、使い勝手を考えてということで、検討課題としておく。

事務局

1点だけ確認したい。先ほどガルウイングに対応しているというお話しがあったが、それはウイングが開くかどうかだけだろうか。

設計者 新居未陸氏

逆に、ガルウイングには対応していないとはどういう意味か。高さ方向で、開くかどうか、開いてからも無理がないかどうかは確認して決めている。横に開くと考えている。

事務局

小ホール搬入口は図面上プラットホームがない。横に開いても、横からの搬出入はできないということによいか。

設計者 新居未陸氏

プラットホームはない。

桧森委員

ガルウイング対応は、横付けで荷下ろしができるかどうかなので、それは「できない」ということになるが、それでよいと思う。

ついでにもう一点確認させて頂きたい。小ホールにピアノ庫があるが、コンサートグランドピアノ、一番長いタイプのものが入るか。

設計者 新居千秋氏

大きさは入るようにはしている。買えるかどうかは、市に訊いて頂かなくては、僕の範疇でない。

勝又副分科会長

では、展示系機能に話を移したい。今日はだいぶ詳細な説明があったが、いかがか。

三ツ山委員

当初の細長い展示室のご提案に比べると、ほぼ正方形になって、使い勝手が抜群に向上している。位置も、この敷地やホールも考えれば、落ち着く位置ではないだろうか。全体の位置関係、壁面も大きく増えているということ、搬入経路も舞台系とは別なところで持ってこられたので、これは考えるベストだと思う。ただ、移動壁の収納等、細かい部分の話については、今後のご相談とさせていただきます。

設計者 新居千秋氏

今、調査もしている。また、可動壁屋を呼んで、動かすのに必要な人数や動かし方を確認している。以前、三ツ山委員より指摘された、壁面に切れた線が出るというのが気になり、近代美術館など色々な美術館に行って見ているが、やはり若干は線が出てしまっている。そうなったらやはり、上から貼って頂くしかないのかもしれない。

三ツ山委員

あと一番苦勞するのが、台座、展示台である。要望は意外と多い。どれくらいの数があればよいかというときりがないが、なるべく収納出来るスペースを用意しておかないと、利用者の要望に応えづらい。

設計者 新居千秋氏

今、大ホール側に控室をとっている。その隣に清掃員室を置いているが、その大きさ等も今後の検討になる。備品についても調査を進めている。100号が30枚くらい多く展示できるようになるということで、だいぶ違うと思う。僕も毎週色々なものを見に行っている。

三ツ山委員

図面上、可動壁が設置された場合の一つの区画は何メートルか。大きな5つの区画になっているが。

設計者 新居未陸氏

壁1つが7m程度である。

設計者 新居千秋氏

つまりこの区画でおおよそ15m四方となる。あざみ野よりも少しだけ大きい。天井の引き出し口が、近代美術館は4コマになっている。細いものだと3コマで使いにくい。4つくらいが妥当で、二つに切ってもベンチをおける限界くらいの広さを考えている。天井高さについては6mくらいのところもあるが、4mで許していただかないと、斜線等の問題により難しい。今は4mの上で空調を入れ、格天井のようなもの、重くならないような形でつくればと考えている。

三ツ山委員

普通の市民の方がピクチャーレールを付けて作業をする限界は4mである。それ以上になると危ない。それ以上の高さではプロがやらなくてはいけない。

設計者 新居千秋氏

今は、色々なパネル屋を呼んで、一番移動しやすく、移動時間の早いもの、耐久性のあるもの等、検討している。

三ツ山委員

移動壁については、天井の戸車の性能が悪いと自重でつぶれてしまうので、その検討も大切だと思う。

設計者 新居千秋氏

僕らがやった赤レンガ倉庫はじめ、他の美術館等も見て、調査している。この次の設計案の際には、こういう性能があるということをきちんとご説明する。

三ツ山委員

位置関係についてはここがベストかと思う。

桧森委員

天井高は4mということだが、フラットか。

設計者 新居千秋氏

その上に空調が吹けるように格天井的なものを検討している。赤レンガ倉庫ではメッシュにしたが、美術館の格調の問題もあり、今は別の形を考えている。これから1年半くらいあるので、照度の計算等も行ない、一番よい形を探す。僕の手がけた美術館には世界的に有名なものがある。ポール・メロン・センター (The Paul Mellon Centre for Studies in British Arts) という僕の先生 (Louis I. Kahn) の作品で、その担当だった。なかなか、あそこまではいかないが、全体にはそういったことを目指したい。ただ、天井懐が斜線でつぶれてきているので、空調が上から吹けないかもしれない。床から吹くかもしれないかもしれない。それが許されるかどうか。

三ツ山委員

ギャラリーの床は大事な機能になる。床吹き出し空調には反対する。

設計者 新居千秋氏

スリットで切るか、何か他の方法を考えたいが、あの位置はちょうど天井が (斜線制限に) あたってしまう、難しい。泣きをいれたくはないが、あの道と斜線は簡単にはいかない。床でないと出来ない可能性もある。何か、スリット等で対応できないか考える。

勝又副分科会長

懸案事項ということによろしいか。

三ツ山委員

いや、懸案では困る。天井吹き出しがよい。今のギャラリーは、壁に絵を飾り、作品を展示台に載せればよい、という解釈ではない。パフォーマンスもする。床機能はとても大切になってくる。だからこそ、フローリングにして欲しい、絶対にピータイルはダメだということも申し上げた。そういう意味でも、床は死守しなくてはいけない。

設計者 新居千秋氏

質問させて頂きたいが、では、床のエッジの部分、周囲から吹き出す手法がある。それはいかがか。

三ツ山委員

それは妥協できるかもしれない。

桧森委員

三ツ山委員にご確認頂きたい。細かい話になるが、搬入口の左側に水場があるか、これはよいか。

三ツ山委員

これくらいの水場が必要というのは、あざみ野を見ていただいたので、広さや利用勝手は理解いただいていると思う。なお、これは中から使えるのか、外からまわらないと使えないのか。

設計者 新居千秋氏

中から使える。普段は閉めておき、開けると、使える状態になっている。

三ツ山委員

そうであれば、大丈夫だと思う。以前もお話したと思うが、これは大スタジオの機能とも共有できる部分になるのではないか。

勝又副分科会長

展示系は以上でよろしいか。では、5 ページ、創造系支援系機能に移る。ここには重要な諸室があるが、まずは、大スタジオについてご意見をいただきたい。7 間×7 間という提案を頂いているが、これ

をどうしていくか。大スタジオについて、広さに限らない話題でもかまわない。

桧森委員

先ほどの事務局の説明で、自主制作が年間1~2本あるというお話だった。それはこのホールでゼロからつくりこむミュージカルなりオペラがあるということである。本来、プロであれば、大ホールの舞台上で長期のリハーサルを行うかもしれない。しかしこの大ホールは出来るだけ貸し出して、多くの方に使って頂きたい。舞台上でのリハーサル期間が十分にとれないのであれば、同じ広さで稽古ができるだけの空間が必要、というのが基本計画の趣旨でもあった。市民の方や子どもたちが何日も何日も大スタジオで練習をしていくことになる。できれば大ホールの舞台と同じ大きさで、その大きさ感を体で覚えるということを確認したい。制作事業がなく、自主事業は招聘事業がほとんどで、せいぜい企画程度であれば、必ずしも広さが必要ないと思うが、ここで作品をつくることを考慮すると、長期にわたって使える大ホール主舞台と同じ広さのものが必要ではないか。

勝又副分科会長

先ほどの新居さんのお話で、検討していただければとあったと思う。

設計者 新居千秋氏

検討はするが、技術的には敷地がない。管理事務室をやめれば大スタジオを広げられる。検討はするし、あきらめているわけではないが、物理的にできることと出来ないことがある。

また、現在の広さから8間×8間に広げると、広さ1.3倍になる。市民の方からは、使用料金が高くなるのではないかという声もある。本当に後でそういうことを揉めないか。また、制作ものをやっている間は市民の方は使えない。稽古の間、大スタジオは使えないということ市民の皆さんが理解して「何ヶ月間使えない」ということが頭に入っていて「いいよ」と言われないと、仮に技術的に8間×8間が可能でも、それは違うと思う。いつも困るのは、片一方から来ている意見と、別の片一方から来ている意見がバッティングしている。技術的には、今は、7間×7間に出っぱりを加えた広さが限界で、事務室をやめる等以外に方法はない。敷地がないからできない。個人的に8間を嫌だと言っているわけではなく、意見が集約され、技術的に可能なものであれば、やっている。

市来委員

例えば、クラシックバレエは7間間口では、いっぱいいっぱいとなる。飛んだり回ったりする必要がある。実質7間で動きがあり、その横に「走りこみ」と言われる部分で8間ないとダメである。僕は、7間の動くエリアはどうしても欲しいと思う。8間の間口は欲しい。

設計者 新居千秋氏

考えてはみる。間口を広げることは出来なくはないかもしれない。その際には、オフィスを切ることになる。26人も入る膨大なオフィスである。それを切れば、そちら側にのばす事は出来る。

今、伺っておきたいのは8間×7間でよいのかどうか。それも、今すぐは検討出来ない。今既に検討を指示している者達がおおり、彼らを混乱させるわけにはいかない。

市来委員

管理事務室をいじめれば出来るのか。

設計者 新居千秋氏

管理事務室を切るか、あるいは市民の方たちにロッカーをあきらめてくれと言え、出来る。

勝又副分科会長

大スタジオ問題については、市の意見も聞きたい。

事務局

基本計画にもあったように、大ホールのアクティンクエリアのスペースということがある。本来は、アクティンクエリアから1間ずつ広くないと練習室としては不十分と考えていた。また、小田原の場合には、小劇場として使うという機能を持ちたいということの基本計画に入れている。例えば、横浜では青少年センターの多目的室など、若い劇団がそれを使うことで育っている。そういったことから、小劇場機能も考えなくてはならない。それを考えると7間×7間は狭い。

設計者 新居千秋氏

基本計画に書いていないのは、お金である。敷地の広さも当初の想定と違う。入らないものを計画されて、お金にあわないものをつくれと言われても、できない。何か言われれば改良はする。今「基本計画に書いてあります」と言われるが、その時に入っていたのか。入っていたとしても敷地は縮んでいる。オフィスも人数が増えてきている。それを全て満足してできる建築家は世界中にいないと思う。敷地が広ければ入る。技術的に入らないものは入らない。

僕は今、7間×8間でも、何か方法はないかと思って探ってはいる。今の論議はおかしい。「書いてあったじゃないか」と言われるが、書いた時に、その大きさはどうなっていたのか。ホールの舞台の広さも、プロポーザルの案よりもだいぶ大きくしている。それが入る敷地があればできる。

それに、今のお話では、小ホールがあつて、小劇場があつて、そういった普通よりも過剰な施設になっていって、それを60億円以内でやれと言っても、それは無理である。

桧森委員

ただ、プロポーザルの前に基本計画が出ていたはずで、その時点からそういう計画になっている。今、事務局から話があったように、大スタジオはお客を入れるところだということは最初から想定してお願いしている。

設計者 新居千秋氏

基本計画では細目が決まっていない部屋も沢山あった。それが膨れてきている。さらに敷地の幅も狭まっている。技術的に入らないものは何か言われても入らない。基本計画をつくられた時に、入るということを検証しているのか。検証されていないものが入るわけがない。では、どこかをあきらめ、例えばオフィスを細長くして、他の部屋を兼用するなどするしかない。出来そうもない問いかけをされても出来ない。良くなるところは全て良くする。三ツ山委員のご指摘も、オーケストラピットも、出来ることはやっている。さらに敷地を縮められてしまい、動きがとれない。今の状況で「それが出来ない」と言われるのはおかしい。それに、その時の予算編成はどうなっていたのか。

この場に出てくる話は全て大きくなる方向ばかりである。お金は無際限でよい、個別に全部成り立たせろと言われれば、おっしゃるようにできる。そうでないなら、何かを減らして何かをいれる話しでなければ難しい。先ほど市来委員がおっしゃった案も、一部を小ホール側にくい込ませたりなど、何とか出来ないかと検討している。その部分で何億もコストを上げることもできない。この敷地は、建物を入れ込むだけで精一杯の敷地である。この20年くらい僕らは施主と揉めたことはない。ここが変なのは、不確実なまま成り立ったもの（基本計画）が絶対で、確実なものは減っていることだ。敷地が減っているということは、できないということだ。どこかで誰かがあきらめてくれればできる。みんなのシャワー一室をやめると言えば、出来る。

勝又副分科会長

では、それについては逆に市への宿題ということではよろしいか。

設計者 新居千秋氏

宿題というか、僕は知らないよというか、絶対おさまらない。

市来委員

新居さんのおっしゃるとおり、構造壁が変更になるなら、全て変更になってしまう。

設計者 新居千秋氏

だから、それを妙な構造で支えようとしている。構造壁を動かして、何億か積んで、構造の方法を変えようとしている。

市来委員

エレベータやロッカー室をギャラリー側に移せないか。

設計者 新居千秋氏

どちらにしろ、技術的に敷地が狭い方の側には延びない。縦の方向については検討しようとしている。ただ、そうすれば、施設に入ってきた人のバギーなどは置けない。エレベータの位置も変わるので、2階も前に出てくるから難しい。

簡単に言えば、僕らは先に他の項目をフィックスしていく。ここについては、もう少し検討して、何か特殊なものにするしかない。市来委員の片側だけでも8間にしたいという要望は受け止めた。僕に任せて頂きたい。曲がった木のような構造を考えない限りはできない。建築にはアンビギュイティ (ambiguity) というものがあって、漠然とした部分がある。皆さんの言ったことを聞いて、毎回直している。僕らは最大に努力する建築家だと思う。ただ、技術的に、敷地が狭い側には伸びないということは理解いただきたい。間口の方を伸ばす検討は、やらないと言っているのではなく、順番があり、今、この部分を計算させているものを全て放して進めるわけにはいかない。一度計算が終れば、そこだけ変えるなど、色々と考えようと思っている。ただし、全体では、オフィスなど、どこかをあきらめたり、分散したりということがない限りは、敷地も狭く斜線もきつい状況では、入らないという話である。

これについては、1ヶ月2ヶ月では出来ないが、僕の方で挑戦はする。僕なりに思うところがある。

勝又副分科会長

そろそろ次の項目にいきたいが、よろしいか。

市来委員

大スタジオについては、こういう論議がどうしても起きてしまうということである。次への宿題としていただきたい。

桧森委員

優先順位は高い。

勝又副分科会長

では、中スタジオに話題を移す。2階に計画されている。

設計者 新居千秋氏

今、2階トイレの位置も含め、中スタジオの位置を変えようとしている。そうすることで1階とあわせて使う際の使い勝手もよくなる。

勝又副分科会長

今、改良されつつあるということである。

市来委員

6間×4間ということだが、僕が小劇場を数やってきた経験から言うと、6間×4間でも十分に芝居の稽古はやれるはずである。4間四方のところ、その年のベスト・スリーになるような芝居を、120人のお客入れてやったこともあるくらいである。これは意欲の問題であり、僕はよいと思う。

ただ、ここは簡易防音ということだが、音に対する対策だけは考えておかななくてはいけない。

勝又副分科会長

では小スタジオについて。基本計画では特に部屋の数は指定されてはいない。「複数」ということなので、2つ以上ということである。今のご提案、2室と調整室付き1室ということで、合計3室である。

設計者 新居千秋氏

2つは最低確保しようと思っている。最後の1つは高さの調整によっては難しいかもしれないが、最低でも2つは確保する。

桧森委員

小スタジオで想定される用途としては、楽器の練習等がある。中にはギターアンプ等を持ち込んで練習することも想定される。その際の搬入は、エレベータを使うか、裏の階段から上がってくるかのどちらかとなる。この段差、スロープはどうしてもできてしまうものか。

市来委員

スロープだから大丈夫ではないか。

設計者 新居千秋氏

スロープは、建築基準法上は1/12である。僕の実験の結果、体の弱い人には1/13.5がよいとわかった。今の計画では1/16である。ほとんど感じられない程度の勾配だと思う。僕らとしては、一応セミプロくらいまでが出来るくらいまで想定する。ただ、1つくらいは床を下げられないところも出てくるので、その浮き床はやめる。今は3室とあるが、少なくとも2室は確保する。

ワークショップルームは、小さい部屋と大きい部屋に今はなっている。意図はよくわからないが、身がい者の方から「小さい部屋を用意してくれ」という意見がいくつか出ていた。それも含めて現在検討中である。僕らの施設だけでなく、北上市文化交流センターなど日本中で流行っている部屋はいくつかある。今、流行っている部屋は何をやっているかを調査している。

小スタジオの壁に凹みが出来れば、棚ができるので、そこにレコードが置ける、本が読める、などを考えている。付加価値をつけられる場所がほとんどないくらい縮められている。そのあたりにみんながいて、自分のものを飾ってみたりできるようにしたいと思っている。

これらの部屋も、まだ動かしているところであり、僕らはまず大ホール、小ホール、技術的などを乗り越える。それに1月くらいはかかる。その間に、担当が一人、調査を進め、どういう部屋にするかを検討してく。小さい部屋は、今は6人用の打ち合わせ室くらいをとっている。水回りはワークショップルームに付けようと考えている。避難所になった場合のことも想定し、厨房のようなものがついているもの、水回りがついている会議をする部屋となる。オーケストラなど、人が沢山来て中スタジオを待合室として使う場合のラウンジとしても使えるかと考え、今は計画している。どの部屋が何をするかは、未だ決めていないが、ずっと今、スタデイをしている。

創造スタッフ室はタダで貸してあげるのかという問題がある。印刷と会議ができるスペース、創作を市民の人が出来る場か、と僕は解釈している、なるべく印刷物や市民活動が出来るゾーンが望まれている。その先のスペースは、今、トイレを動かしているので、配置も含めてがらりと変わる。打ち合わせの他にもゾーンがあるようにつくっておこうかと考えている。ただ、今はまだその大きさなどについてはお話しできない。壁などの関係で入る限界があり、今、動かしている最中である。

その先の空間に和室とあるのは、畳ではなく板間にする。施設が出来た1~2年後にオリンピックもあり、日本的な会議室もあってよいと考える。普段はパーパーで開いているもの、畳ではないもの、畳も置けるものでよいかと思う。今は、集中して解かなくてはいけない問題がある。その間に、全国でどんな施設があり、僕らがつくった建物も9万人のまちで60万人が来る施設も含めて、どの部屋が一番流

行っているかを調査させて、一番人気のありそうな部屋に似繕いでつくる。

勝又副分科会長

ワークショップルームや創造スタッフ室については、市のお考えもあるのではないかと。

設計者 新居千秋氏

原則は、僕は、この部屋はお酒を飲んでも良い部屋だと思っている。もっと固くやれということであれば、固くする。2階は、市民で、無目的な人も居られ、色々なことが楽しめる場所であってはならない。そうしないと、カチカチの部屋ばかりであり、使われても使われなくても流行らない。使われていて仕込みなどをやっていけば、人が入らない。使われなくてもがらんとしている。それ以外をできるだけお金をかからない範囲で、例えばキッチンが35万円くらいであり、リフト等とは全くコストが違うので、そういうものをこういうところにつけておこうと考えている。最後にコスト調整で「もはやこれまで」という状況になったら全て取りやめて間に合わせる。

桧森委員

小スタジオやワークショップルームはフレキシブルに考えられると思う。どういう部屋になるかがわかってから、機能を振り分けることを考えたい。ただ、創造スタッフ室は、管理運営分科会として、使い方を想定している。例えば、市民フェスティバルなどの実行委員会が立ち上がった場合、その事務局であるとか、あるいはレセプションのボランティア組織が出来た際にその事務局機能、打ち合わせ場所、あるいは、複数の市民が自主事業を企画する場合の実行委員会的な組織の利用などを想定している。つまり、複数の団体が同時使用する可能性がある。その中では、印刷だけでなく、例えば場所をとるものとしては、チラシの挟み込みやプログラムを折ったりする類の作業が結構ある。そういう意味で、創造スタッフ室は、今描かれているこの大きさでは狭いと考えている。管理運営分科会では、和室の部分を創造スタッフ室にできないかという意見が出ている。

設計者 新居千秋氏

創造スタッフ室はそういう使い勝手があると思っていた。印刷と挟み込みの部屋にし、子どもを預ける場所を打ち合わせに使えるように考えていた。秋田では、子どもがいないときは、そこを打ち合わせに使っている。時間帯によって利用に差があるので、全体としては、このあたり一体を創造スタッフゾーンとして使える。かつ、手前の部屋はその都度臨機応変に使う。チラシの挟み込みは、僕も実際に経験したことがある。そういう部屋がないとできない。このあたりを創造スタッフゾーンとし、ワークショップルームで会議もできるなど、色々な部屋を併用して使えば、ものすごい団体数がない限りは、確実に対応できると思う。

桧森委員

では、託児室は他の部屋と同じように、ひとつの部屋になるのか。

設計者 新居千秋氏

ワークショップに来る人は子どもを連れてくる。みんなで見られるように、子どもが遊ぶ部分があって、座れる部分、会議ができる部分もあるスペースにする。まだ計算をしているが、トイレの位置を動かす関係でもっと広くできるのではないかと考えている。オープンスペースである。自販機で買ったお茶を飲んだり、ワークショップルームの給湯室を使えばお茶をつくって出すことも出来る。基本計画には細かいことは書いていないので、僕らの想像で、市民の人がそこにいつもいて、お茶を飲んだり、子どもを見ていたり、印刷をしていたり、その横で会議をしていたり、ちょっとした飲み会などがある場合は使える部屋が横にある、というのが今の提案である。美術系で2階の部屋も使って何かやりたいという場合は、部屋をシェアして使えば無駄にならない。全体には、庭とデッキで水回りも含めて何かつ

くれば、格調の高いものになり、使い勝手もよい。

今はまだ団体の人数などが不明瞭である。そこについて細かい数字が出ないので、僕らの想定した人数で、かなり使えるようにしてあると思う。出来れば金をとらない部屋にした方がよい。

位置によって、躯体をうつ時に凹ませておき、棚をつければ、楽譜やそういうパンフレットを置ける。そういうものがないと、この建物は、僕の予測が正しいとすれば、シーンとした建物になってしまう。アクティビティのあるものはそこにつくろうと今は考えている。

ただ、その前に解かなくてはいけない問題が山ほどあって、そこに至っていない。

桧森委員

そのあたりはこれから行なって頂くということでよい。ワークショップルームの使い方のイメージとして、少し考えておいて頂きたいのは、例えば5人×5グループでのグループワークなどを行なう可能性があるということである。丸いテーブルが5つくらいあって、その周りでグループワークみたいなものが出来るとよい。

設計者 新居千秋氏

それは出来る。今は、こちら側に水回りをつくり、染色なども出来るように、人がぶらりと来られる何かを考えている。全てを専有されるとうまいかない。

三ツ山委員

ワークショップルームは、「会議室」ということではなく、テーブルを置けば会議やミーティングが出来るということであって、制作もできる環境があることが大切である。マルチパーパスなものとして欲しい。

設計者 新居千秋氏

劇団の人が来て、服をつくりたいというのであればつくってもいい。このあたりに倉庫があるが、そこに椅子をしまえば、ガランとした部屋になるように考えている。

三ツ山委員

フローリングと水場があればアトリエになる。

設計者 新居千秋氏

あと、僕らがやっている唐木田は会議室に厨房が2つついている。そこでものが食べられる。そのような形も検討している。

勝又副分科会長

先に進みたい。創造系支援系機能については、あとは楽器庫、その他とあるが、今までに議論されている話ではないだろうか。

桧森委員

2階に楽器庫はないか。

設計者 新居千秋氏

ある。若干ではあるが、階段の下あたりである。例えば群馬県の太田市には、貧乏な子にチェロや何かを貸してあげるという仕組みがある。そこまでやるか、普通の楽器庫でよいか、というところで変わってくる。今はまだ、倉庫は余っているところにとろうと思っている。原則的には貧乏な人でも音楽や何かを学べるようにした方がいいと僕は思う。

桧森委員

小スタジオで使う楽器の備品については、スタジオの中に置きっぱなしではなく、外にしまっておいて出すという形にしたい。

設計者 新居千秋氏

本当はそういう部屋があった方が使い勝手もよいと思う。

勝又副分科会長

よろしければ、次に移る。6 ページはいかがか。交流系機能については、先ほど託児室の話は出た。トイレ、多目的トイレもこれから精査されていくということであった。ここはよろしいだろうか。

よろしければ、最後の項目、管理系機能ということで、先ほどの管理事務室をどうするかということ市の方でお考え頂かなくてははいけない。拡大の方向でなく検討して頂かなくてはならない。その他はよろしいか。

桧森委員

和室はどうなるのか。多くのホールを運営してきた人たちの意見としては、固定の和室はいらない、和室としてしか使えないスペースはいらない、ということである。和室にもなる、という状態がどうやったら出来るのかはわからないが、基本的にはフリーのスペースではないのか。この和室の場所についてはいくつかの意見がある。私の意見は、この場所は完全にオープンにし、フリーで使える机と椅子を置くというものだ。それ以外の意見では、託児室がここでよいのではという意見もあり、また、創造スタッフ室はこちら側がよいという意見もあった。和室についてはご検討願う。

勝又副分科会長

和室については、市の方でも使い方を整理して頂きたい。

市来委員

もう一点、1 階になるが、防災センターや最終退館口を確認したい。おそらく、小ホールの楽屋口が最終退館口になる。小ホールの楽屋事務室の位置を変更し、小ホールのエリアを切る位置に配置してはどうか。大ホールとのエリア区分も明確になる。できれば、この出入口の近くに防災センターがあるとよい。防災センターの広さがとれなくても、何らかの管理が出来るようにしたい。楽屋事務室は主催者側の使うもので、職員が常駐するわけではない。最終退館口には警備員室をおいて、大ホールも含めて共有スペースとし、その先で大ホール、小ホールのエリアを切れば、整理ができるのではないか。

設計者 新居千秋氏

倉庫は減ってよいか。

市来委員

倉庫はともかく、ここに、小ホールの楽屋事務室はエリアを切る位置に配置される方がよい。そうすれば、今小ホールの楽屋口として計画されている出入口から入った人は（小ホールエリアを経由せず）管理事務室に直にいける。この出入口が最終退館口にもなると、非常に管理はしやすくなると思う。その点が今は曖昧になっているので、一度整理をして頂きたい。

勝又副分科会長

では、そこは整理していただくということで、あとはよろしいか。市の方からもよろしいか。

事務局

2 階の南側テラスの使い方を教えて頂きたい。

設計者 新居未陸氏

防災上としておこなうてはいけない。そうしなければ3階以上建てるとホールに穴があいてしまう。そこをバルコニーとして、消防にオーケーを頂けないかということを考えている。

設計者 新居千秋氏

屋根にしてもかまわない。今のところ防災上、逃げる場合、体の弱い人もいるので、なるべく一次待

避場所をつくらなくてはいけない。実際には段差があるが、防災上の問題と、それ以上の解法がないから、別にテラスに出ることはしないと思うが、計画している。

事務局

北側のテラスはいかがか。

設計者 新居千秋氏

どちらにしてもここに屋根が必要である。後々、将来、向こうとつながる時に、ここから繋げればよい。階段だけではなく、何かつなぐところが必要であり、その中ではこの方法が一番安い。屋根材をかけることはもう出来ない。

事務局

仮につながった場合を想定してということか。

設計者 新居千秋氏

そうだ。また、下に部屋があり、どちらにしても屋根が必要で、屋根にするのであれば、そのままテラスにしておいた方がよい。今は「テラス」と書いてあるが、実質的には屋根である。前の建物が空いた時には、繋いでこられるようにその分はとっているだけである。貫通路の名残だ。

事務局

もう一点、楽屋口の出入りの段差はどのようになっているか。車いすへの対応はいかがか。

設計者 新居千秋氏

小楽屋を全て止めれば斜路をつけることができる。出来ることと出来ないことがある。出来るだけ段差をなくして3段程度はどうしてもある。800mmあがらなくてはいけない。建物の中で段差はつけられない。最初の案では建物の中の段差があったが、それをやめてこのように終結している。どうしても斜路をとるなら、小楽屋をやめればよい。

勝又副分科会長

だいぶ時間が過ぎているが、全体を通じて他にご意見があるか。今日は色々なご意見を頂いたが、事務局で一度整理していただき、今後開催される市民ワーキングや専門分科会の概要も含めて、後日報告していただきたいと思う。

桧森委員

もう1点だけ確認したい。1階の図面で、大ホールの横のモギリ・クロークはどういう考え方か。

設計者 新居千秋氏

クロークとして、ここで預かった方がよいかと思い、ここにつくっている。

桧森委員

奥へ入っていく通路ではないということでしょうか。

設計者 新居千秋氏

そうだ。裏方の動線はここでブロックしている。普段はモギリではなく、閉めて、別の部屋として使っている。

勝又副分科会長

色々議論をしたが、委員の皆さんで、本日の検討内容について改めてご意見がある場合には事務局まで出していただければと思う。

次第2 議題(3)その他

勝又副分科会長

議題は終了したが、皆さん他に何かあるか。事務局からもよろしいか。では、長時間にわたる議論となったが、本日の議事については終了とする。傍聴のみなさまもお疲れ様でした。ひとことアンケートも書いて頂ければと思う。

次第3 閉会

勝又副分科会長

では、これにて会議を終了する。皆様お疲れさまでした。

全委員

ありがとうございました。

以 上